



2021年3月期

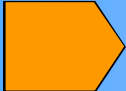
決算補足資料

証券コード:6908

2021年5月10日

イリソ電子工業株式会社



-  I . 2021.3期 連結決算概要
- II . 2022.3期 連結決算見通し

1. 2021年3月期 業績のポイント



新型コロナウイルス影響で前期比マイナスも、第1四半期を底として回復。
 営業利益は第4四半期にベトナム工場が新型コロナウイルスで所在地域のロックダウンで約1カ月操業停止した影響を受け修正計画未達成。

■業績 :	20.3期 実績	21.3期 実績	差異	2月2日 修正計画	差異	単位: 百万円
売上高	39,614	36,520	△3,094	36,000	+520	
営業利益	4,628	2,900	△1,728	3,250	△350	

■売上高: 第1四半期での新型コロナウイルス感染拡大による世界的な生産活動停止や販売低迷の影響を受け車載市場が減少。ドルの円高の影響もあり前期比減収。ただ第2四半期以降は回復して、前期比92.2%まで減収幅を縮小。

	1Q単独	2Q単独	3Q単独	4Q単独	通期累計
20.3期	10,040	10,023	9,938	9,612	39,614
21.3期	5,836	9,232	10,851	10,599	36,520
前期比	58.1%	92.1%	109.2%	110.3%	92.2%

■営業利益: 売上減少に伴う操業度低下や金価格の高騰、コロナ禍での運搬費の高騰があったが、原価低減活動と徹底した支出削減により、回復。

※新型コロナウイルス ベトナムロックダウンによる一時的影響:
 ベトナム工場2月3日～2月28日まで操業停止。
 →売上約△3億円、営業利益約△5億円の影響。

2. 2021年3月期 事業のポイント

■市場別:

- ・**車載市場**: 新型コロナの影響で2020年は世界新車販売が前年比約15%減少し、パワートレイン分野以外は前期比減収。
パワートレイン分野は、欧州や中国で環境対応車への購入補助金の増額や継続施策などもあり、前期比約70%増と大幅伸長。
 注力中のセーフティ分野とパワートレイン分野の売上構成比が、前期比3.6ポイント増の26.6%へ成長
- ・**コンシューマー市場**: コロナ禍での巣ごもり需要で、ゲーム機向け、テレビ向けが好調
- ・**インダストリアル市場**: 中国向けFA関連機器が好調で過去最高売上。
 5G基地局向けへ出荷開始

■主な新製品:

搭載機器	種類	搭載機器への貢献
パワートレイン	“Z-Move®”ソケット	信頼性向上、自動組立対応
	“Z-Move®”低背・小型可動BtoB	信頼性向上、小型化
	“Z-Move®”狭ピッチ可動BtoB	信頼性向上、小型化
5G基地局、サーバー	25Gbps伝送対応FPCコネクタ	高速伝送対応、自動組立対応
車載、通信、FA	25Gbps伝送対応(イーサネット)電源端子付き可動BtoB	高速伝送対応、小型化
車載、FAなど	業界最大クラスの可動幅を持つ可動BtoB	自動組立対応



3. 2021年3月期連結業績(前期比)



単位:百万円

	20.3期 累計	21.3期 累計	前期比
売上高	39,614	36,520	△3,094 92.2%
営業利益	4,628 (11.7%)	2,900 (7.9%)	△1,728 62.7%
経常利益	4,668 (11.8%)	2,970 (8.1%)	△1,697 63.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,287 (8.3%)	2,141 (5.9%)	△1,145 65.2%
EPS	139.49円	90.89円	
為替レート 期中平均	ドル:109.10円 ユーロ:121.13円 元: 15.66円	106.17円 123.73円 15.63円	△2.93円 2.60円 △0.03円

4. 売上高詳細(市場別)

単位:百万円

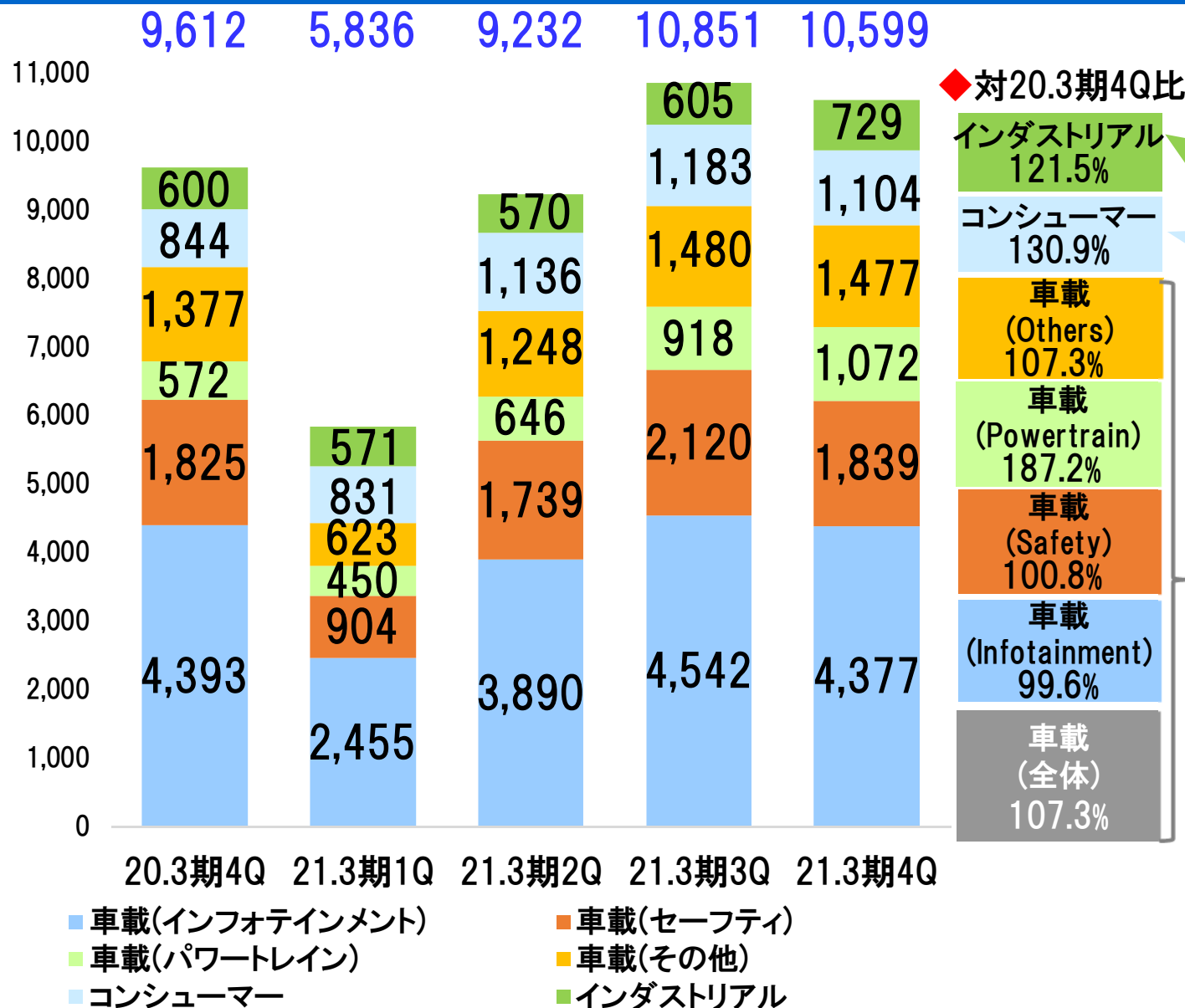
		21.3期 累計	前期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		29,786	88.3%	81.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる1Qでの欧米を中心とした自動車生産・販売の低迷を受け前期比で減少 ・その環境下でもパワートレイン分野は欧州と中国向けを中心に需要増。前期比70%増加で過去最高売上を更新 ・コロナ禍での巣ごもり需要により、ゲーム機向け、テレビ向けが増加 ・中国向けのFA関連機器の需要増により増加 ・海外比率76.8%
区分	エンターテインメント	15,265	80.9%	41.8%	
	セーフティ	6,603	90.1%	18.1%	
	パワートレイン	3,087	171.5%	8.5%	
	その他	4,830	84.4%	13.2%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		4,256	114.7%	11.6%	
インダストリアル (産業機器など)		2,477	113.7%	6.8%	
合計		36,520	92.2%	100.0%	



5. 市場別売上高(四半期推移)



単位:百万円



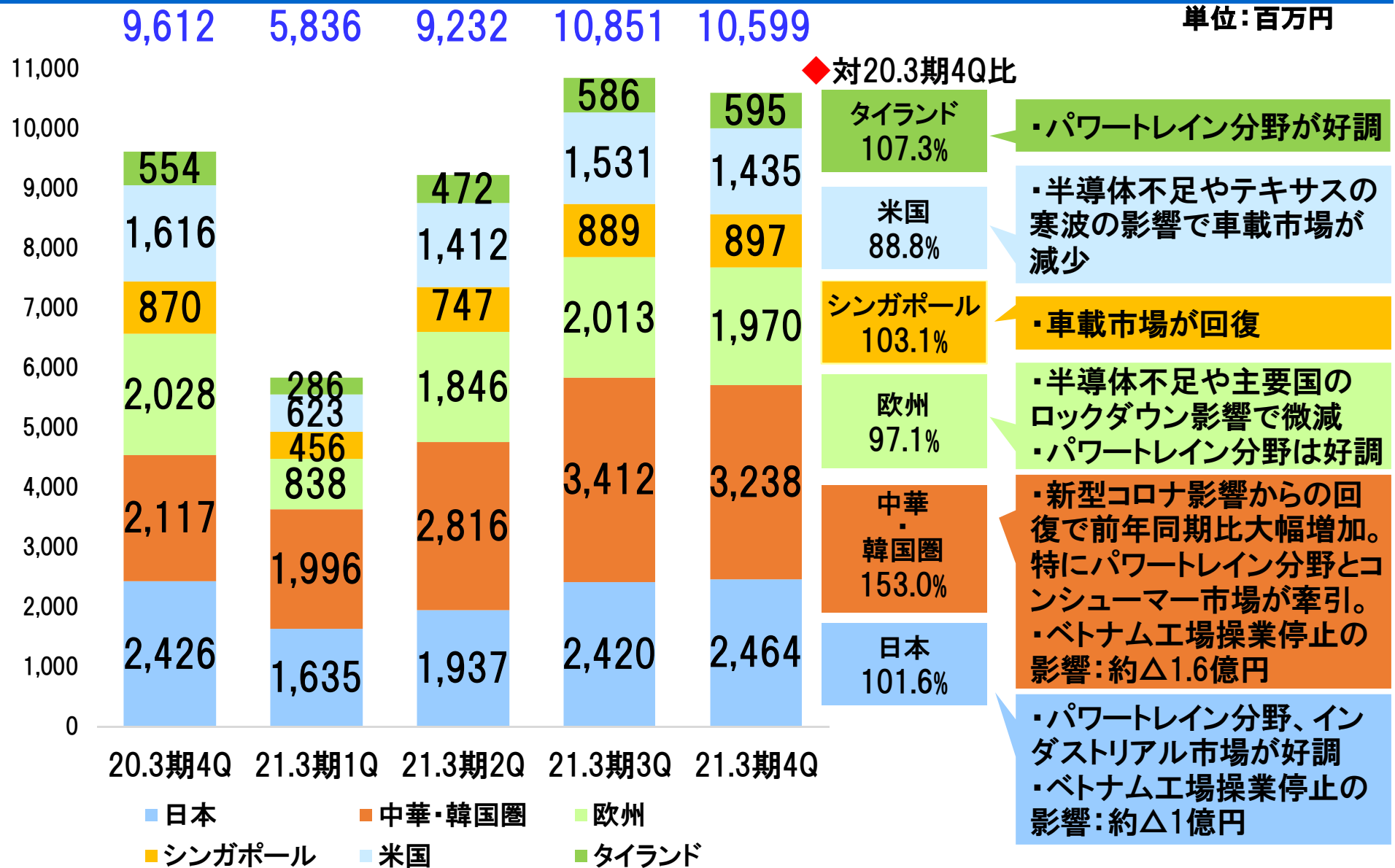
- ・中国市場の回復に伴うFA機器の需要増の影響で増加。5G基地局向けも一部貢献
- ・ゲーム機向けが牽引して前年同期比増加
- ・20.3期4Q比:前期では新型コロナ影響があった中国市場の回復が牽引して増加
- ・21.3期3Q比:半導体不足やベトナム工場操業停止の影響で微減
- ・注力しているパワートレイン分野は好調で、四半期での最高売上を更新。環境対応車の需要増加に伴い、バッテリー関連や外部給電用のインバーター向けが牽引



6. 地域別売上高(四半期推移)



単位:百万円

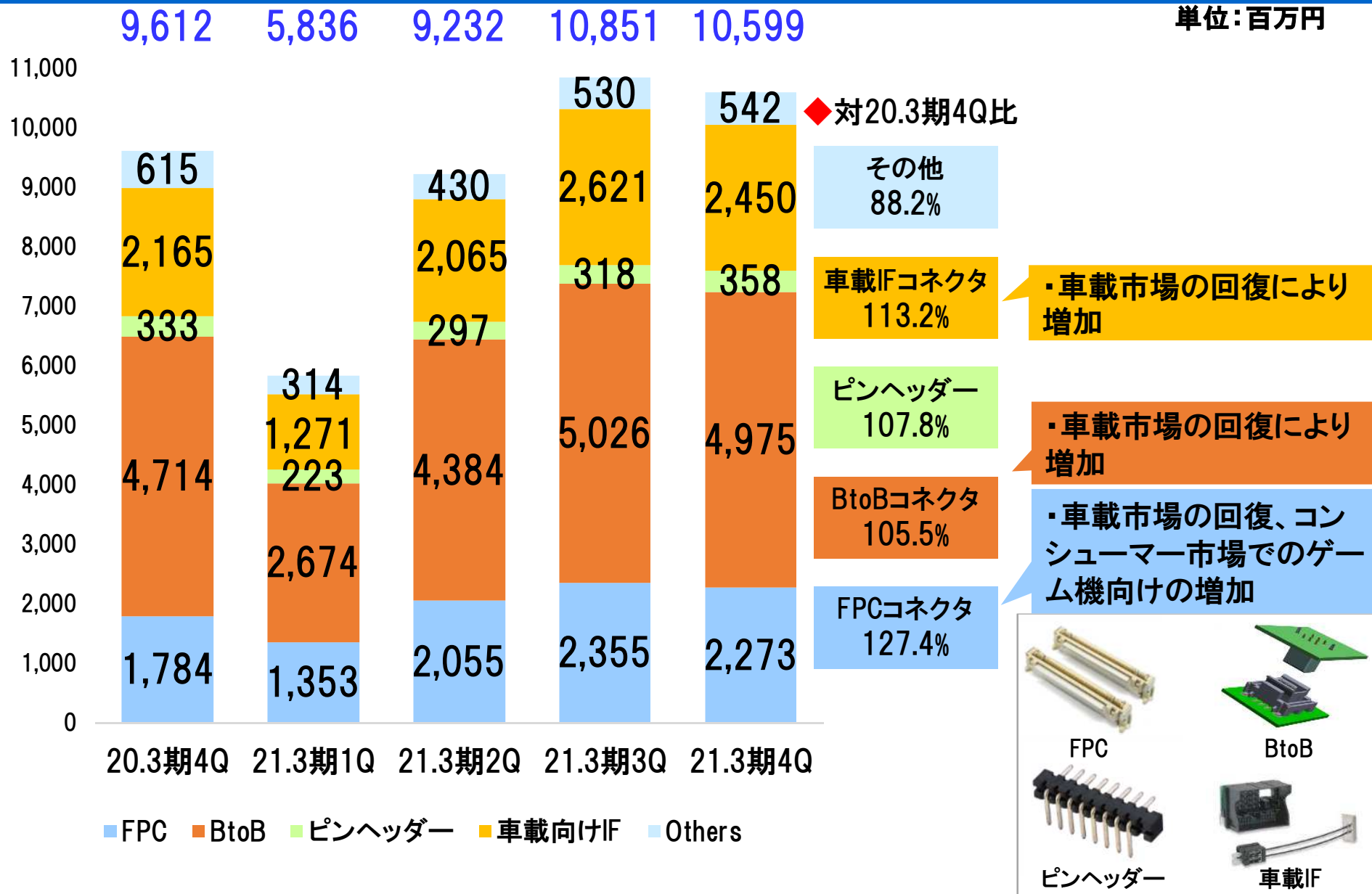




7. 製品別売上高(四半期推移)



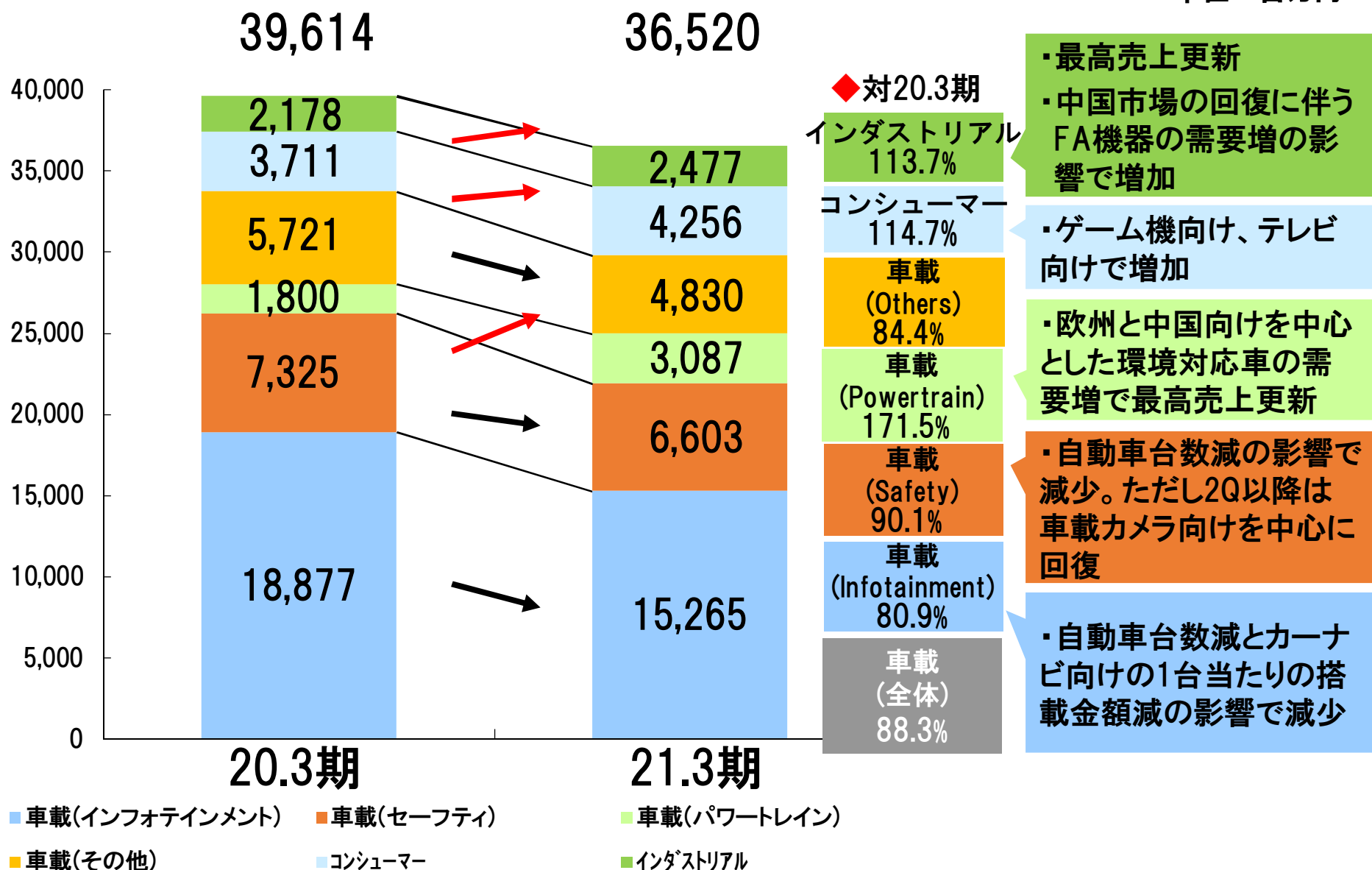
単位：百万円



8. 市場別売上高(通期累計)



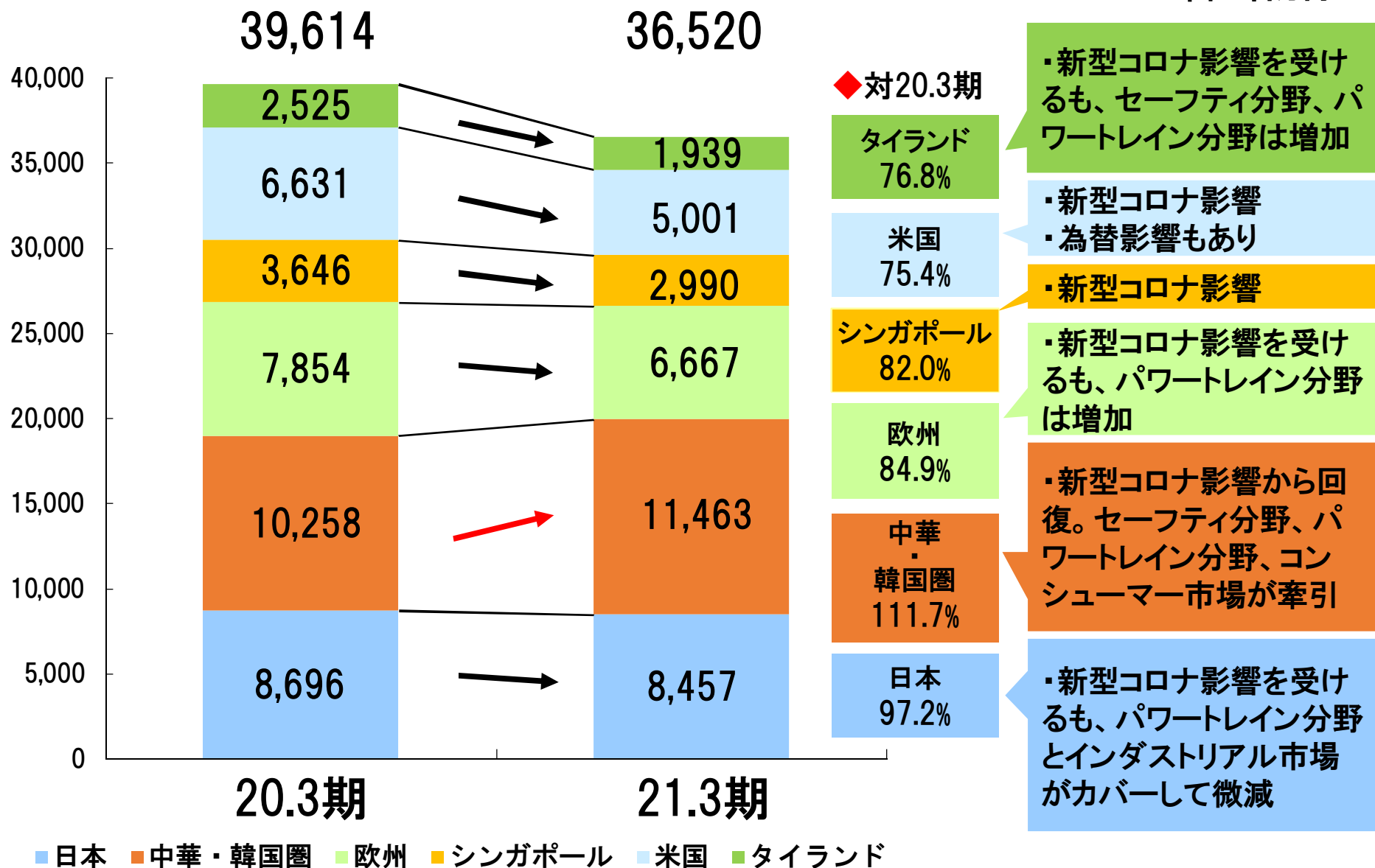
単位：百万円



9. 地域別売上高(通期累計)



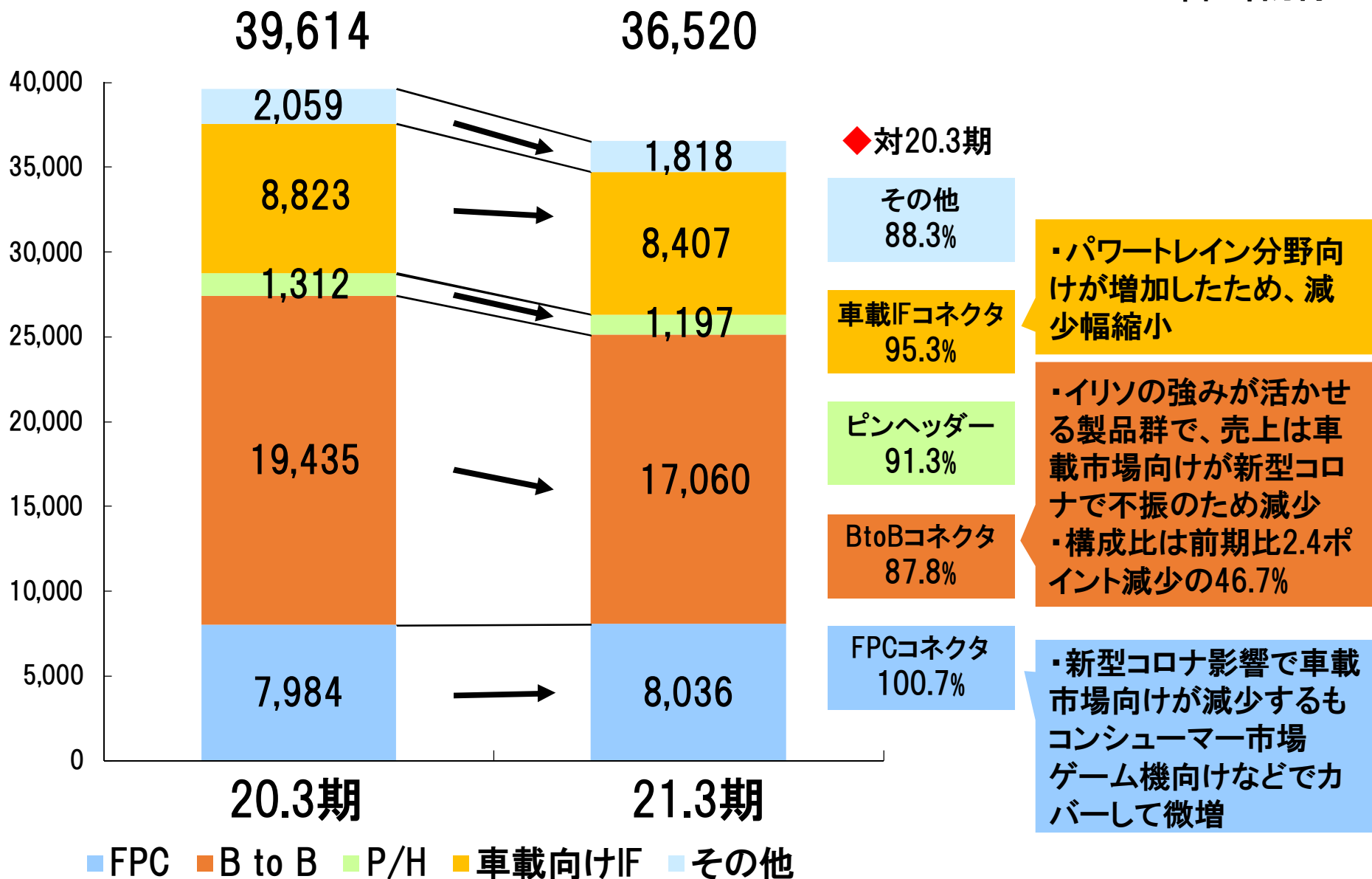
単位: 百万円



10. 製品別売上高(通期累計)



単位: 百万円





11. 損益計算書(連結)(前期比)



単位:百万円

	20.3期 累計		21.3期 累計		前期比	
売上高	39,614	100.0%	36,520	100.0%	△3,094	92.2%
売上原価	26,626	67.2%	25,317	69.3%	△1,308	95.1%
売上総利益	12,988	32.8%	11,202	30.7%	△1,785	86.3%
販売管理費	8,359	21.1%	8,302	22.7%	△57	99.3%
営業利益	4,628	11.7%	2,900	7.9%	△1,728	62.7%
営業外収益	139	0.4%	183	0.5%	43	131.6%
営業外費用	99	0.3%	113	0.3%	13	113.8%
経常利益	4,668	11.8%	2,970	8.1%	△1,697	63.6%
特別損益	△328	△0.8%	△181	△0.5%	147	55.2%
税前利益	4,339	11.0%	2,788	7.6%	△1,550	64.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,287	8.3%	2,141	5.9%	△1,145	65.2%
E P S	139.49円		90.89円		-	
為替レート	109.10円／		106.17円／		△2.93円／	
(ドル／ユーロ／元)	121.13円／15.66円		123.73円／15.63円		2.60円／△0.03円	

12. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位:百万円

	20.3期		21.3期		前期末比	要因
流動資産	32,395	53.4%	35,209	55.1%	2,814	現金及び預金440 受取手形及び売掛金1,073 商品及び製品489 原材料及び貯蔵品583
固定資産	28,242	46.6%	28,732	44.9%	489	機械装置1,052 建設仮勘定△918
資産合計	60,638	100.0%	63,941	100.0%	3,303	
流動負債	7,928	13.1%	7,956	12.4%	28	支払手形及び買掛金429 未払金△453
固定負債	1,190	2.0%	1,254	2.0%	63	
負債合計	9,118	15.0%	9,210	14.4%	92	
株主資本	51,217	84.5%	52,176	81.6%	958	当期純利益2,141 配当△1,183
その他の 包括利益累計額	△15	- %	2,171	3.4%	2,187	為替調整勘定2,086
非支配株主持分	317	0.5%	382	0.6%	65	
純資産合計	51,519	85.0%	54,731	85.6%	3,211	1株純資産 2,306.16 円 (前期末 2,172.66円)
負債・純資産 合計	60,638	100.0%	63,941	100.0%	3,303	

13. キャッシュフロー計算書(連結) (前期比)



単位:百万円

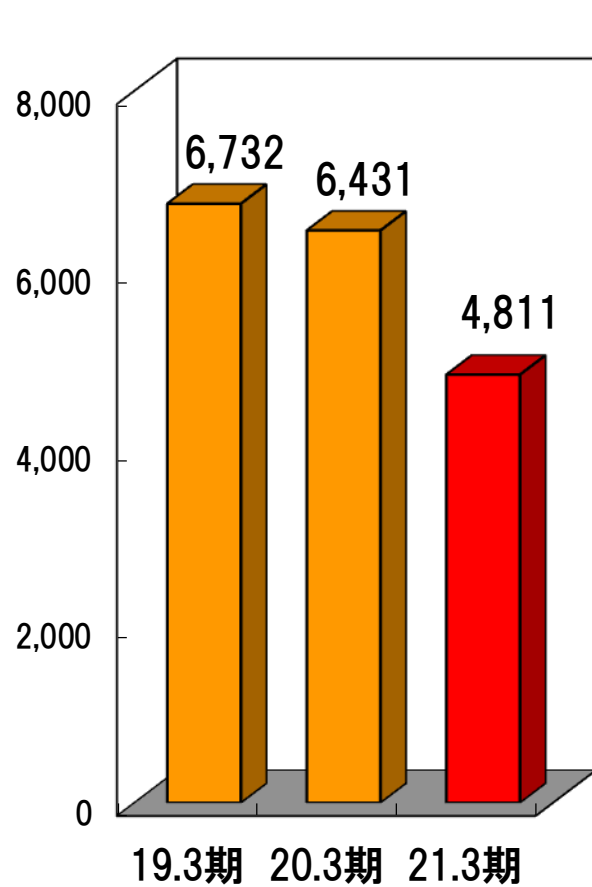
	20.3期	21.3期	増減
営業キャッシュフロー	6,830	6,234	△596
税金等調整前当期純利益	4,339	2,788	△1,550
売上債権増減(△は増加)	△240	△284	△44
仕入債務増減(△は減少)	△7	△166	△159
投資キャッシュフロー	△6,482	△4,881	1,600
有形固定資産の取得	△6,355	△4,760	1,594
無形固定資産の取得	△75	△50	25
財務キャッシュフロー	△1,664	△1,379	285
配当金の支払い額	△1,420	△1,184	236
自己株式の取得による支出	△0	△0	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△321	467	788
現金及び現金同等物の増減	△1,637	440	2,078
現金及び現金同等物の期首残高	15,456	13,819	△1,637
現金及び現金同等物期末残	13,819	14,260	440



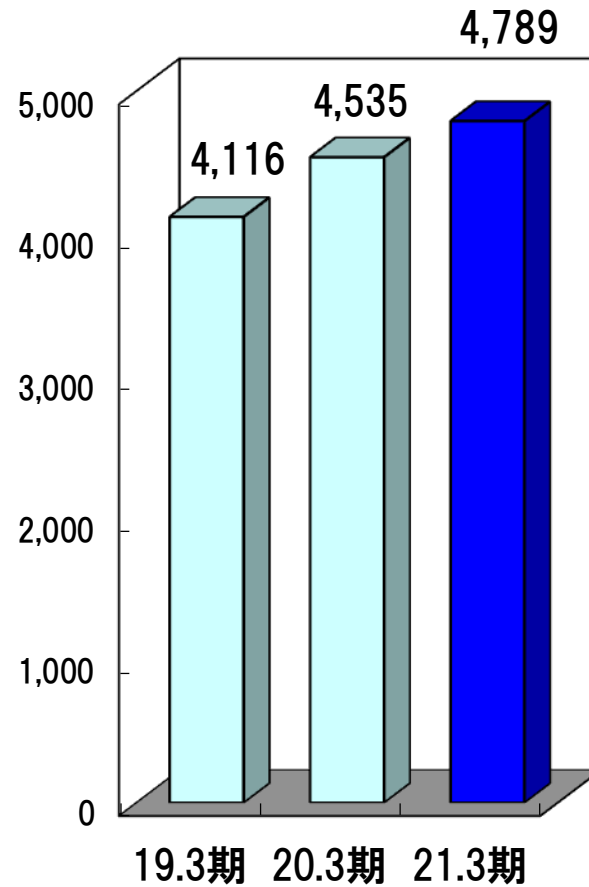
14. 設備投資・減価償却・研究開発



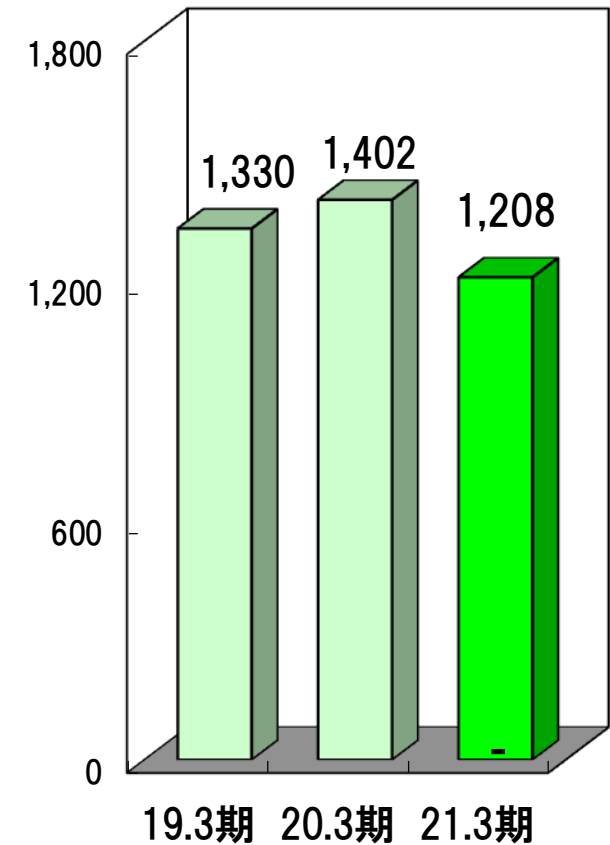
単位：百万円



設備投資




減価償却



研究開発



I . 2021.3期 連結決算概要

 II . 2022.3期 連結決算見通し



1. 2022年3月期 計画(前期比)



単位:百万円

	21.3期 累計	22.3期 計画	前期比
売上高	36,520	42,000	5,479 115.0%
営業利益	2,900 (7.9%)	6,700 (16.0%)	3,799 231.0%
経常利益	2,970 (8.1%)	6,600 (15.7%)	3,629 222.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,141 (5.9%)	4,800 (11.4%)	2,658 224.1%
EPS	90.89円	203.68円	
為替レート 期中平均	ドル:106.17円 ユーロ:123.73円 元: 15.63円	105.00円 127.00円 16.00円	△1.17円 3.27円 0.37円



2. 2022年3月期 計画(設定条件)



項目	設定条件
設備投資	6,800百万円
減価償却	4,600百万円
研究開発費	1,400百万円

※設備投資には通常の「新製品開発投資」、「合理化投資」、「増設更新投資」以外で下記を含む。

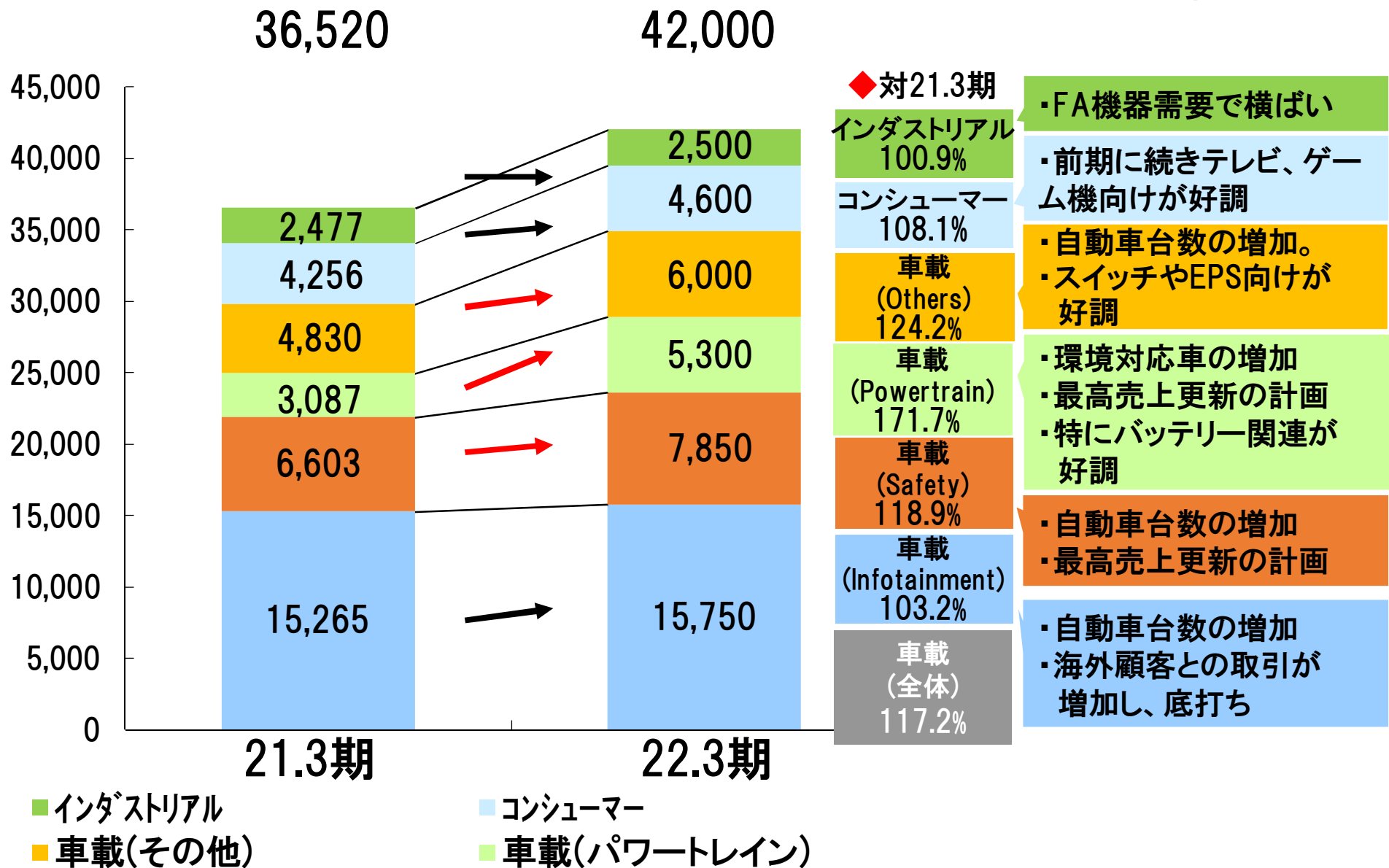
- ・新ERPへのシステム投資:約900百万円
- ・BCP対応投資:約400百万円



3. 2022年3月期 市場別売上高計画(通期累計)



単位:百万円





4. 2022年3月期 計画のポイント



■売上高計画 42,000百万円(前期比+5,479百万円)

- ・自動車の生産販売台数は、半導体や金属材料、樹脂など部材供給面で一部懸念はあるが、前期のコロナ影響からの市況回復により増加。
新車販売台数は2021年8,600万台と想定(2020年7,800万台)
- ・パワートレイン分野の継続的な伸長による牽引
- ・コンシューマー市場でのテレビ、ゲーム機向けの好調維持

■営業利益計画 6,700百万円(前期比+3,799百万円)

- ・稼働増加による固定費の回収での利益増加
- ・自動化、合理化による原価低減活動
→売上回復に伴う運搬費増加や原材料価格の上昇を吸収し、増益の計画。
2018年3月期以来の16%以上の営業利益率を目指す。



長期ビジョンで目指している売上高1,000億円への通過点である、「売上高500億円、営業利益率20%」の足掛かりとなる1年。将来のための仕込みも開発、営業の両面で実施していく。

■ 2021年3月期に新型コロナウイルス関連で経験したこと

- ・急激な需要回復局面での在庫不足
- ・ロックダウンによる操業停止(ベトナム工場約1か月停止)



BCPの重要性を再確認

■ BCP対応方法の見直しを実施

- ① 第1段階: 在庫体制の見直し→在庫の増量: イリソと顧客で3か月
- ② 第2段階: 流動製品の設備配置の見直し→スペア設備配置
 - ・生産設備のリードタイム短縮
- ③ 第3段階: 流動製品の生産体制の変更→マルチ生産



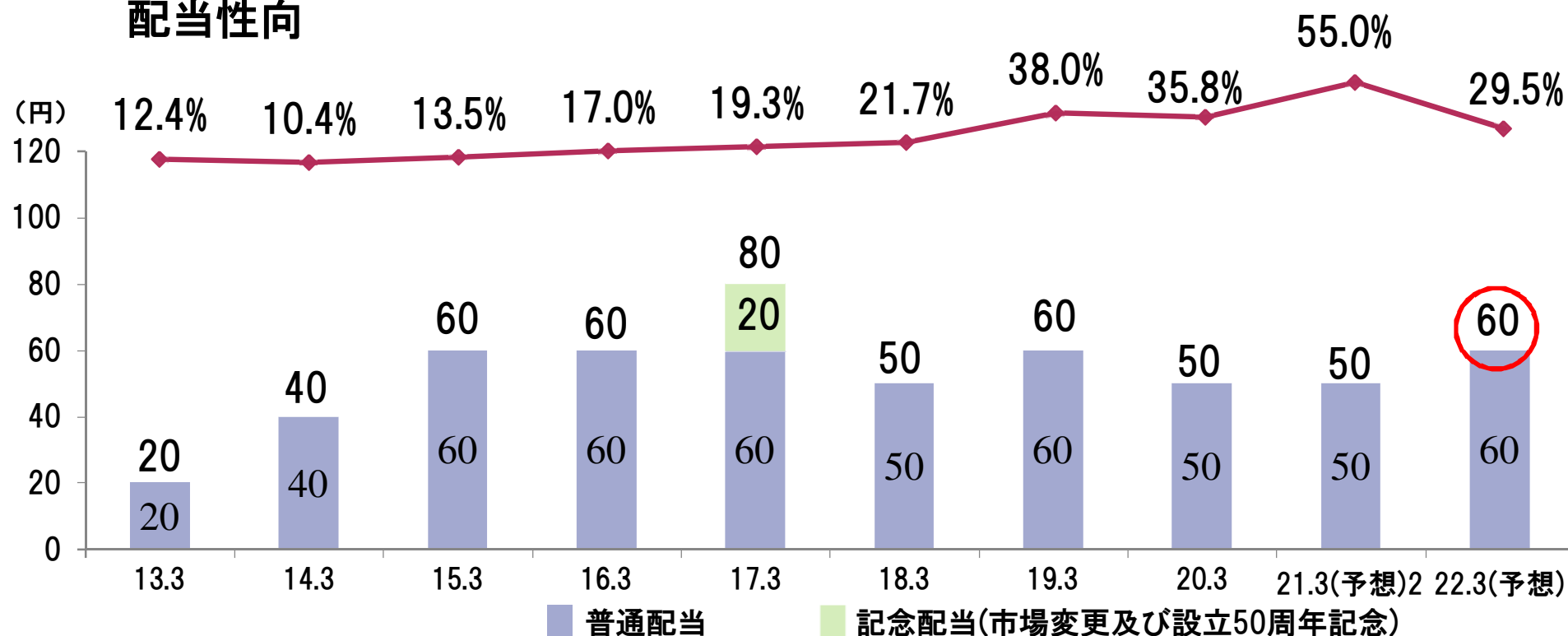
第3段階後ではイリソ在庫と顧客在庫で2カ月を目指す

6. 株主還元

- ・21.3期配当予想は期初40円から50円に修正
- ・22.3期配当予想は60円配当
- ・今後とも安定配当及び**配当性向30%以上**を目指しています

※2017年9月に1:2の株式分割を行いました。
17.3期以前は2分割前の金額を記載しております。

配当性向



会 社 名	：	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	：	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	：	1966年12月
社 員 数	：	3,277名(2021年3月31日現在)
資 本 金	：	5,640百万円(2021年3月31日現在)
本 社	：	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	：	
	国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
	海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	：	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	：	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。